

お湯まわりの快適さを守りつつ CO₂削減効果の高い製品を開発

増え続ける家庭からのCO₂排出量。その内、給湯・暖房・厨房・水道からの排出が3分の1を占めています。そこに着目した(株)ノーリツでは、快適性や利便性を損なうことのない多様な温暖化対策製品を提供するとともに、高効率機器の拡充や性能向上を図り、再生可能エネルギー利用機器を開発。さらに、太陽光発電・太陽熱温水器・燃料電池などの開発強化に向けた環境機器開発センターを新設するなど、低炭素社会構築に向けた取り組みを展開しています。

そこで、関西支社神戸支店支店長の宮原貞さんに、環境保全に対する同社の取り組み、CO₂削減効果の高い製品の開発などについてお話をいただきました。



環境先進企業として エコ・ファーストを約束

松田:ノーリツでは、エコ・ファースト宣言をされていますが、どのような取り組みを展開しているのでしょうか。

宮原:温水機器使用時のCO₂総排出量を2012年までに2000年比15%以上削減することを目指す、2012年までに高効率温水機器(潜熱回収型)を50%以上にするための開発と普及に積極的に取り組む、グリーンプロモーションを強化し「CO₂の見える比」など製品ライフサイクルを見据えた適切で具体的な商品・サービスの環境情報をお客様にわかりやすく提供する、国内生産事業所におけるCO₂総排出量を2012年までに10%以上削減することを目指すなど、多くの取り組みを約束しています。

松田:進捗状況はいかがですか。

宮原:毎年1回、当初約束した数値目標がどのような形で進捗しているのかを国に報告しなければなりません。2009年度分は今年5月に報告しましたが、おおむね順調に進んでいます。

松田:生産ラインでの環境への取り組みも厳しく規制されているのでしょうか。

宮原:リサイクルを進めるとか、商品を製造する際の化学物質の管理を強化し、できるだけ減らす取り組みを行っています。

松田:営業分野でも何か規制はあるのでしょうか。

宮原:特に規制があるわけではありませんが、営業活動におけるガソリンやカタログの使用量をできるだけ減らそうという取り組みは行っています。また、営業マンそれぞれが、環境商材をどれだけ売ったかということまで、会社としては細かく出していきます。神戸支店では今年から、各営業マンが環境商材を何台売って、どれだけCO₂の削減に繋がり、それがスギ何本分の吸収量に当たるのかということを担当ごとに毎月発表しています。今月はスギ何本分と数字に表れますので、仕事の励みにもなり、みんな楽しみながら取り組んでいますよ。



株式会社MANIX
代表取締役社長 松田 幸治

ガスと太陽熱・太陽光の連動で トータルエネルギーを低減

松田:いろいろなメーカーが環境に取り組んでいますが、他メーカーとは違うという取り組みはありますか。

宮原:リサイクル事業を行うグループ会社エスコアハーツをもち、古い給湯器を銅管・銅線・プラスチックなどに分解。純度の高い部材に分け、再利用を行っています。梱包の緩衝材にはシュレッターした紙を活用しています。ここまでリサイクルにこだわっているところは業界でも少ないと思います。商品では、30年にわたって太陽熱温水器を製造し続けており、実は、太陽光より太陽熱の方がエネルギー変換率が格段に良く、50~60%をエネルギーに変換できるんです。夏場なら、エネルギーを消費することなくお湯を沸かせます。こういうものとエコジョーズなどの商品の連動性で、より環境負荷を抑える活動ができるというのもノーリツの強みではないかと思います。

松田:エコジョーズは、新築需要と取り換え需要ではどちらが多いのでしょうか。

宮原:比率では新築が断然高いですね。マンションでは7~8割取り入れられるようになっていましたし、新築住宅でも、年間150軒以上売る大手にはエコジョーズを使用するよう国の指導があります。取り換え需要を増やすことが、重要な課題でもあります。

松田:取り換え需要が伸び悩む要因はどこにあるとお考えですか。

宮原:価格と設置条件でしょうか。でも、一番の要因は、お客様が認知されていないということだと思います。エコジョーズについて説明されないまま普通の給湯器に取り替えが行われるという傾向があります。

松田:取り替えは急を要する場面が多いですかね。

宮原:メーカーや代理店ならすぐに対応できますが、販売店さんでは、準備されていない場合もありますからね。そのような状況をどう改善していくかも課題です。

松田:一般的に太陽光は、オール電化など電機業界のイメージが強いのですが、ガス主体でありながら太陽光にも取り組んでいらっしゃいますね。

宮原:太陽光とエコジョーズの組み合わせは、初期投資が少なく

ecoジョーズ “エコスイッチ”からはじまるエコライフ。 「ふる」も「給湯」も高効率な2つのエコ。

エコ運転 お湯の温度や量をかしこく制御

給湯運転 エコスイッチを押すごとに「エコ運転/8L/10L/12L/OFF」で出湯量を制御します。
2Lペットボトル 1,825本分/年

ふる熱効率 90% ふる回路を高効率化しました

熱効率 給油95%、ふる90%を実現

ふる側の熱効率	従来タイプ 約80% >>	エコジョーズ 約90%	JIS基準による
給湯側の熱効率	従来タイプ 約80% >>	エコジョーズ 約95%	JIS基準による

約15%カット ガス代もかしこくセーブ 高効率燃焼のおかげでガスの使用量も減らせ、ガス代も従来に比べて約15%下がります。

太陽熱 + ガス ハイブリッド

太陽熱温水器とガスふる給湯器を一体化したハイブリッド設計。太陽熱を最大限に利用しながら、ガスふる給湯器の利便性をプラス。環境にも家計にもやさしく、時代にマッチしたソーラー給湯システムです。

暮らしEco! ECOハイブリッド なら、こんなにオトク!

お湯はりなら 従来の給湯器で浴槽にお湯を注ぐ場合と比べると、大幅にCO₂を削減できます。

杉の木なら 13Aで24本分! LPGで29本分の杉の木が吸収するのと同じ量のCO₂を削減します。

※浴槽1杯(200L)、設定温度42℃、入水温度18℃の場合で、お湯はりする熱量をCO₂に換算した場合。

環境Eco! ECOハイブリッド なら、こんなエコ!

従来タイプの給湯器より
年間ランニングコスト **約4割おトク!**

年間ランニングコスト
従来タイプの給湯器 **約4割おトク!**

※修正M1モードにて東京・名古屋・大阪・福岡の平均。4人家族の給湯必要熱量より算出

消ひんです。将来的に投資分の回収を考えると、オール電化より少し早く回収できます。また、いま、太陽光で発電した電気をけっこう高い値段で買い取ってくれます。家庭の中でお湯をつくるのは、けっこうエネルギーを消費しますが、それをガスで補うことによって買ってもらった電気の量がかかり大きくなるんです。使用されるお客様にとっては大きなメリットですよ。そのほか、お湯をつくるのにトータル的にエネルギーをどれだけ使ったかを見ることも大事です。電気は、発電の際にも、ガス・重油・原子力を使うなどエネルギーコストがかかってきます。その点、天然ガスであればパイプラインで引かれ、各家庭で燃焼してお湯をつくるということになりますから、トータルのエネルギーコストが抑えられます。環境全体を考えれば、ガスは地球に優しいエネルギーということができ、太陽光との組み合わせによってさらにトータルのエネルギーコストを抑えるという考え方です。

メーカーと販売店、工事店が一体となり きめ細かなコンサルタントで顧客満足

松田:ガスイメージの強いメーカーが太陽光に取り組み、周囲からはどんな声が聞かれますか。

宮原:販売店や工事店さんなどからしてみれば、常に給湯器やお風呂、キッチンなどで接点のあるメーカーに、太陽光についても相談できるということで、エンドユーザーに対してお声がかけやすく、相談にも乗りやすい状況だと思います。ただ、知識の必要な商品ですので、販売店や工事店の相談にこまめに応じ、いろいろなお手伝いのできる体制をとることが重要になってくると考えます。ショールームで、他の水まわり商品とも一緒に商談ができるという利便性もポイントです。

松田:太陽光に関しては、先行メーカーがたくさんあるわけですが、勝ち抜くための作戦は。

宮原:細かいところまでお手伝いするというのが一つ。二つ目は、屋根の上に載せる商品ですから、工事が大切です。つけたあとの発電状態なども考えてアドバイスさせていただくなど、細かいコンサルティングを工事店の方々と一緒に行い、お客様の満足度を高めるということです。残念ながら太陽光がつけられないと

いう場合は、給湯器と一体になったハイブリッドソーラーなど次の提案ができるのも、強みだと考えます。

環境機器開発センターを新設 新エネルギー機器の開発力を強化

松田:エネファームなどの商材はまだ高価で、普及を図るにはコストダウンが必要なのではないでしょうか。

宮原:まさにその通りだと思います。当社でも、コージェネレーションや家庭用燃料電池などの開発を進めており、コストダウンに取り組もうとしています。

大手の住宅メーカーさんでも、発電システムと蓄電システムを合体させた住宅を開発されていますね。太陽光で発電し、日中蓄電して夜のエネルギー消費に使う。コージェネレーションで発電したのも同じく蓄電するという形で、エネルギーゼロ住宅を実現させるということが発表されていました。

そういう住宅もこれからますます増えてくるでしょうし、ノーリツとしても、協力していけると考えています。

松田:そうした開発を強化するための施設を整備されていると聞きましたが。

宮原:太陽光発電、太陽熱温水器、燃料電池などの開発施設、実験室を備える環境機器開発センターを明石に新設、2012年の稼働を目指しています。また、販売店さんに施工方法などを学んでいたための新エネルギー施工研修センターも着工していて、こちらは来年2月から利用を始める予定です。

松田:ますます、環境機器に強いノーリツが出来上がるわけですね。今日は、お忙しい中、いろいろ有意義なお話をお聞かせいただき、有難うございました。



株式会社ノーリツ
関西支社神戸支店 支店長 宮原 貞